



国税局
局長



●平成3年入庁
留学(ハーバード大学)、三島税務署長、財務省主税局企画官、国税庁課税企画官、東京国税局徴収部長、東京国税局課税第一部長、国税庁企画課長などを経て令和7年から現職。

札幌国税局 局長
山下 和博

変わらない目的に向かって
挑戦し続ける

国税庁
部長



●平成元年入庁
秋田北税務署長、札幌国税局徴収部長、福岡国税局課税第一部長、東京国税局調査第一部長、大阪国税局総務部長、国税庁課税総括課長、熊本国税局長などを経て令和7年から現職。

国税庁 徴収部 部長
山崎 博之

人や社会のリアルに
正面から向き合い信頼を得る

国税局長のお仕事

私が局長を務めている札幌国税局は、北海道にある30の税務署を所管し、職員数は約2,000名です。管内面積は全国の20%を占めており、各税務署の管轄も広大です。その税務署ごとに異なる経済状況や地理的状况などを踏まえつつ、国税庁全体として目指す方向に舵取りを行う必要があります。また将来的なビジョンを持って今後の組織運営の方向を検討する必要があります。そのため、まずは現場を見て、意見を聞き、議論する。そして、自ら考え、様々な課題に対して最終責任者として判断する。これが今の仕事です。



講演会の様子

国税庁総合職の面白さ

これまで、様々な部署を勤務してきましたが、財務省で所得税の増税かつ申告件数の増加を伴う税制改正を担当した直後に、税務署長として現場を指揮する経験をしました。税法の改正と執行の両方を経験したからこそ、国税庁が担当する税務行政の難しさ、終わりのない奥深さを実感しています。終わりのない課題に立ち向かっていく、それが国税庁総合職の醍醐味だと思います。



訓示を務める山下局長

国税庁総合職を志す学生へのメッセージ

常に経済・社会は変化し、新たな課題が生じます。「適正公平な課税の実現」という変わらない目的に向かってチャレンジするためには、ただ前例を踏襲するのではなく、変化に対応して変革し続ける必要があります。国税庁総合職はその司令塔になることを期待されています。自ら考え、失敗を恐れずに果敢に挑戦できる方を待っています。

受験生の皆さんへのメッセージ

税は、社会の基盤を静かに、しかし確実に支えています。我が国の税制の根幹は申告納税制度にあり、それはひとえに納税者の理解と信頼により成り立っています。

納税者は膨大な数に上り、また、税に対する期待や反応も多種多様で千変万化です。税制をいかに運用すべきか、または、どのような仕組みを構築すれば、納税者の理解と信頼を得られるのか……そこに不変の正解はないのかもしれませんが、その最適解に近づこうとする不断の努力がなければ、この仕組みそのものが揺らぎかねません。

税務の仕事は、法律や計数を扱う専門職であると同時に、人や社会のリアルに正面から向き合う仕事でもあります。

国税庁総合職は、本庁と現場(局・署)が緊密に連携し、また他の機関や団体との議論や協力を重ねながら事務を遂行する中で、様々な施策の企画・立案、環境整備、マネジメントなどを通じて、



訓示を務める山崎部長



組織の舵取りを担っています。

私自身、現在は徴収部にありますが、これまで30年余にわたり、税制、税務調査、システム、広報、資料情報、訴訟、酒類行政など、多岐にわたる部署で業務に携わってきました。その過程で、自らの仕事が、制度や政策の改善につながり、納税者の利便性向上や、税制・税務行政への理解や信頼の深化に寄与していると実感する機会も少なくありません。これこそが国税庁総合職の醍醐味であり、その責任の重さとやりがいの大きさでもあります。

高い志とチャレンジ精神を持った意欲溢れる皆さんの参画を、心から期待しています。